

授業科目 NO. 811 母子包括支援実習

Maternal and Child Care Practicum

授 業 の 形 態 : 実習

単位数 (時間数) : 2 単位 (90 時間)

開講年次・学期 : 4 年次・前後期

必修・選択の別 : 選択・助産師選択コース必修

キ ー ワ ー ド : 母子支援活動、開業助産師の役割、乳幼児健康診査、地域医療連携、助産ケア、分娩管理

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標 (GIO)

地域における多様な場での母子保健制度とその活動の実際について理解し、助産師として妊娠期から育児期において継続的かつ包括的な母子支援の役割を担うために必要な知識・技術を修得する。また、助産所における管理・運営の実際について学修する。

2) 行動目標 (SB0) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 助産所における母子保健活動の実際について説明できる。(②③)
- (2) 助産所における管理・運営の実際が説明できる。(②③)
- (3) 自治体の保健センターにおける母子保健活動について説明できる。(②)
- (4) 母子保健事業及び地域医療連携、他職種協働の実際を理解し、地域における助産師の役割について考察できる。(①②③④)
- (5) 助産学生として真摯な態度で主体的に実習に取り組むことができる。(①)

3 学 修 内 容

実習の内容は、実習要項に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	
実習成績	70%
レポート	30%
授業態度	
小テスト	
口頭試問	
その他	
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者： 山崎 智里

准 教 授 山崎 智里 (母性看護学・助産学)
助 教 大嶋 舞香 (母性看護学・助産学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は助産師としての実務経験を有している。

7 教科書

ウィメンズヘルス看護学及び助産学で教科書として指定した本

8 推薦参考書

授業で指定した参考書、授業時の配布資料などを活用する。

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 既習の助産学関連の講義資料及び技術について復習しておくこと。特に地域における母子保健や助産管理・業務に必要な知識・技術を十分復習して臨むこと。
- 2) オリエンテーションまでに必ず実習要項を熟読し準備学修をして臨むこと。
- 3) 医療法で定められている、助産所の構造設備の基準概要、入所妊婦等の制限、院内掲示義務、嘱託医師の設置等について学修し、実際の助産所にてその内容を確認・質問できるようノートにまとめておくこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 提出されたレポートについては、必要に応じてコメントする。
- 2) 実習に関しては、評価表を基に到達度や課題をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 疑問点や困っていることは自ら表現し、主体的に課題を明確化すること。そして、課題解決に向けた姿勢で実習を臨むこと。
- 2) カンファレンスは、メンバー間で協力し、積極的な姿勢で取り組むこと。
- 3) 健康管理には十分注意し、看護学部臨地実習の要項に準じた対応を行うこと。
- 4) 助産学生として自覚と責任のある行動をとり、看護学部臨地実習の要項「実習に関わる個人情報および実習施設に関する情報(機密保持)等の取り扱い」を理解し、厳守の上、実習に臨むこと。

12 オフィスアワー等

担当教員が実習施設に出向いた時に質問を受ける。それ以外の時間帯は、実習オリエンテーション時に担当教員の連絡方法を伝達する。